



篠原 裕希 (しのはら・ひろき)
理事長、医学博士、外科医、神奈川県医師会 理事、
神奈川県病院協会 理事

鈴木 勇三 (すずき・ゆうそう)
院長、医学博士、日本内科学会認定総合内科専門医、
日本呼吸器学会認定呼吸器専門医、
日本アレルギー学会認定アレルギー専門医

広瀬 典子 (ひろせ・のりこ)
日本リハビリテーション医学会認定リハビリテーション科専門医

平野 佳穂 (ひらの・かほ)
看護部長

岩崎 竜弥 (いわさき・たつや)
作業療法士、回復期リハ病棟主任

小林 マリ (こばやし・まり)
管理栄養士

働きやすい環境を確立。
「患者様にはいつも笑顔で
接するよう心がけています」

良医の視点

写真右から平野看護部長、鈴木院長、篠原理事長、
広瀬リハビリテーション科医師、
岩崎作業療法士、小林管理栄養士

日常生活における「自立」はもちろん、 自分らしさを発揮する「自律」を支援 多職種が力を合わせるスキルミクスで、 より良いチーム医療を目指す



篠原 回復期リハビリのポイン
トは熱いケースカンファレン
スと真心のこもった退院支

住み慣れた地域で 生活できるような支援する

江ノ島電鉄「石上駅」から
徒歩3分、JR東海道線・小田
急電鉄「藤沢駅」からも徒歩
12分ほどの好立地にあり、富
士山一望、湘南海岸、江ノ島
にも近いクローバーホスピタ
ル。高齢者医療に特化した病
院でリハビリに力を入れてお
り、退院後の在宅医療体制も
整っている。回復期リハビリ
は、脳梗塞や大腿骨頸部骨折
で急性期病院での治療が終了
した後に最長180日中で集中
的にリハビリを行う病棟であ
る。リハビリの目的は、「自宅（施
設）に帰った時いかに快適な
生活を送れるか、いわゆる「生
活リハビリ」だ。しかし、高
齢者はリハビリ対象の病気で
外にも認知症をはじめ複数の
疾患を持つことが多く、その
管理も重要である。その意味
でもリハビリだけでなく総合
的に患者さんを診れる医師や
スタッフの絶対条件になる。
また、リハビリにより動ける
ようになると病院内であつて
も転倒のリスクは少なくない
ため、その対応も欠かせない。
以下はスタッフの肉声である。
それぞれの人格がにじみ出て
いる。

篠原 回復期リハビリのポ
イントは熱いケースカンファ
レンスと真心のこもった退院支

住み慣れた地域で 生活できるような支援する

援です。疾患にもよりますが
最長でも180日という限ら
れた期間の中でどれだけ効果
のあるリハビリを提供できる
かです。設定したゴールと現
況のズレの調整はとても重要
です。それを実現させるため
の頻回の症例検討が必須です。
また、急性期病院より回復期
ハリ在宅といった流れがある
中、入院初日から患者様の家
族の意向を確認しつつ、リハ
ビリの進捗状況に沿って退院
計画を立てます。そのため、介
護保険に精通した退院支援看
護師を中心とした専門チーム
が自慢です。

篠原 リハビリは、失った機
能を取り戻すだけでなく、残っ
た機能を向上・維持させるこ
とも目的の一つです。私は元
外科医で、モットーは「鬼手
仏心」。外科医は手術の時、残
酷なほど大胆にメスを入れます
が、それは何としても患者
を治したいという純粋な心が
あるという意味です。

住み慣れた地域で 生活できるような支援する

岩崎 当院の回復期リハビリ
の歴史は12年と長くはありま
せんが、現在はPT22人、OT
15人、ST3人（リハビリセン
ター全体では77人）で58人の
患者様に対応しています。チー

篠原 リハビリは、失った機
能を取り戻すだけでなく、残っ
た機能を向上・維持させるこ
とも目的の一つです。私は元
外科医で、モットーは「鬼手
仏心」。外科医は手術の時、残
酷なほど大胆にメスを入れます
が、それは何としても患者
を治したいという純粋な心が
あるという意味です。

住み慣れた地域で 生活できるような支援する

平野 急性期病院から転院さ
れた患者様やご家族は不安で
いっぱいです。常に患者様に
寄り添って支援していくのが
看護師の役割です。

鈴木 当院ではスキルミクス
といて、薬剤師や介護士も
含めたさまざまな職種が力を
合わせながら、より良いチー
ム医療を目指しています。

住み慣れた地域で 生活できるような支援する

広瀬 私はリハビリ医ですが、
リハビリの視点からだけでは
なく全身をトータルに診る医
師でありたいです。

小林 回復期病棟に来られる
患者様は、思うように食べら
れないことが非常に多いため、
その方に合った適切な食事を
提供するよう心がけています。
車いすの方が、歩けるように
なれば、食事の内容も変わった
りするので、そうした変化も
見逃さないようにしています。

住み慣れた地域で 生活できるような支援する

鈴木 回復期リハビリテー
ション医療は、駅伝のような
ものです。私たちも、患者様
というタスキを託していただ
けるよう信頼されるランナー
でありたいと思っています。

平野 日常生活における「自
立」はもちろん、患者様によっ
ては障害が残ることがあり、
その中で障害を受け入れて自
分らしさを発揮する「自律」
を支援していくのが大切に
す。

住み慣れた地域で 生活できるような支援する

失った機能を取り戻し
残った機能を向上・維持させる